

JECKは、毎年会員の親睦を目的とした「夏季シンポジウム」を開催している。今年は、最近話題に上る機会が多く、JECK派遣専門家も多い「イスラム圏での生活あれこれ」をテーマにして、8月20日にJICA横浜国際センター4F第9セミナー室で開催した。出席者のほぼ全員が発言、討議に参加して活発なシンポジウムとなった。一口にイスラム圏と云っても、国、民族、生活様式も異なり、一時通過生活者の専門家が全容をつかむことは困難であり、相反する報告もあった。以下に、主要発言を列挙する。

基礎事項

- イスラム圏 ムスリム(イスラム教徒)は、北・西アフリカ、中東、西・中央・南・東南アジア等に広く分布するが、その大半はアジア(インドネシア、パキスタン、バングラデッシュ等)に住んでいる。
- キリスト教徒人口は22.5億人(23億)、ムスリムは15億人(20億)と言われている。(ブリタニカ年鑑2009) ()内は、日本ハラル協会からの情報(2016年)
- イスラム教 絶対神アッラーが、ムハンマドに啓示したクルアーン(クルアーン)の教えを信じる宗教。西暦622年を元年とするヒジュラ歴(閏月を置かない絶対太陰暦、1年は354日)に従う。ムスリムが取るべき信仰行為として定められた五行の内、断食(ラマダン、9月)と巡礼(ハジ、12月)は日本でも良く知れるところである。
- アラビア語で書かれたクルアーンが、唯一のクルアーンであり、他の言語に翻訳したものは解説書である。仏教の経典は、中国語や日本語で書かれたものも経典である。聖書も同様に言語の規制はない。
- 挨拶の「サラーム・アレイクム」(返しはワ・アレクム・アッサラーム)は、異教徒の日本人でも使用できる。この挨拶は、ヨルダン等では通じなかったが、東南アジア・北アフリカでは通じた。



司会 福田信一郎副理事長

- 日の出から日の入りまで一切の飲食をしない。つばも飲み込まないとの説もある。病人、旅行者は免除されるが、その分を後で断食する。
- ヒジュラ暦は1年が354日であるから、ラマダン期間は太陽暦からみると毎年11日ずれていく。例えば1976年のラマダンは9月であった。40年後の2016年のラマダンは一周し更に2カ月早い6月であった。
- ラマダン中も日の入り後は飲食が許されるので、レストランは夜中までにぎわっている。
- 厳しいラマダンが明けると親族や友人を呼びお祝いする。ラマダン中多くの外国人は休暇を取りムスリムの世界から外国へ逃げ出すが、この時期に留まりラマダンをムスリムと一緒に過ごすラマダン明けの祝いに呼んでくれ親密さが増し今後良好な関係が構築できる。



シンポジウム

その他

- メッカからの距離に反比例して、戒律が緩くなる傾向がある。
- サウジアラビアは、メッカ、メディナの2大聖地の保護者であり、ムスリムの守護者としての自覚から、戒律は厳しい。
- 寡婦救済の意味もあり、クルアーンで4人までの妻帯は許されるが、住宅、生活費、精神的な愛情まで平等に扱わなければならない。一夫多妻は減っている。特にサウジやUAEの政治家やビジネスマンは欧米で教育を受けた高学歴者多く、知る限りでは全員が一夫一妻であった。若いビジネスマンはOne wife is more than enoughと言っていた。
- 砂漠の民(ベドウィン)には、国境の概念は少ない。サウジアラビアの地図には、サウジアラビアとオマーンとの国境が記載されていない。
- イスラム法は利子を禁じているが、金融の発達に伴いこれを認めざるを得なくなると思う。
- アラブのIBM I:インシャアッラー(神の望むままに) B:ブクラ(明日) M:マーレイシュ(気にしないで)の頭文字を並べたもの このIBMに悩まされることが多い。
明日までに作業を終了するように依頼すると、「了解した インシャアッラー」と答える。当日になると「忘れてしまった。明日は済ませる。気にしないで」そしてインシャアッラーとつけ加える。
仕事をするのを忘れても、神が望まないからであり、私の責任ではないと言い訳をされているようで面白くない。未来のことは神が決めることで人間が決めることではないと考えるのか、スケジュールの概念がないような気がする。
日常生活ではたまに経験することは有ったが、ビジネスの世界では、経験しなかったとの発言もある。
- 女性が頭に被るヒジャブ(ベール)は、チュニジアではほとんどアクセサリーとして使用している。一方サウジアラビアでは、外国人を含めて外出時は、アパヤ(黒の頭まで隠すマント状の衣服)の着用が必須であり、宗教警察の取り締まり対象になる。

食事および飲酒

- 酒は原則禁止だが、国によりばらつきがあり、アルジェリア、チュニジア等では規制していない。
- 戒律の厳しいサウジアラビアでは、アルコールは禁止であり、見つければ外国人の場合収監後、国外退去となる。酢等の調味料中のアルコールも規制対象になる。日本の醤油、味噌はアルコールを添加するので、この基準を満足しない可能性が大きい。
- 酒類は大使館で開催される大使主催の正月祝賀会などで頂くことが出来る。酒を飲みたいときは、規制の少ない国に出国する。
- 魚を食べる習慣がない国が多い。しかしアラビア湾のサウジアラビア東部地区では各種の魚類(特にエビが有名)が水揚げされスーク(市場)で売られている。
- 日本国内では、すき焼き等の牛肉も食べないムスリムがいる。牛の屠殺がハラールでないことを心配している。
欧米では、ハラールな屠殺なので安心して食べている。オーストラリアは、イスラム圏への牛肉輸出が多い。
- 成人式のようなお披露目には、羊がふるまわれる。
- 誕生日に招待した子供たちから、ケーキの中に豚由来の食品の有無を確かめられて、家族が困惑した。

ラマダン(イスラム歴の9月、断食の月)

- 断食は、ムスリムが取るべき信仰行為の一つであり、ムスリムは、

1. おおひら・かずあき 専門分野:包装技術 JICA任地:サウジアラビア JICA以外の任地:シンガポール、南アフリカ 2. イスラムに関する図書その他情報源 ○アラビアノート 片倉ともこ ○イスラムの日常世界 片倉ともこ ○アラブ史教科書 イザヤ・ベンダサン 山本七平 ○砂漠の豹 イブ・サウド・ブノアメジャン ○灰色の狼 ムスタファ・ケマル 同上 ○オリエントの嵐 同上 ○ドバイ発アラブの挑戦 宮田律 ○アラブの大富豪 前田高行 ○文明の衝突と21世紀の日本 サミュエル・ハンチントン ○中東と私(上・下) 千代田化工建設 ○タリバン アハメド・ラシッド 講談社 ○メッカ巡礼記 鈴木剛 アブドゥル・アジズ国王記念図書館(非売品) ○サウジアラビアと日本 林邦、ムハンマド・クルディー他5名 サウジアラビア大使館文化部編(非売品) ○日本に生きるイスラム 小杉泰・深見泰緒子他11名 同上 ○インターネットアラビア純子 <http://www.sm.rim.or.jp/shukran/> ○インターネット:イスラムのホームページ <http://www.2s.biglobe.ne.jp/tracket/>